



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟

発行責任者:森下 元康

〒441 8028 愛知県豊橋市立花町46 光陽ビル3F

電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875

e-mail: info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.50

社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟総裁 高円宮憲仁親王殿下ご逝去



2002年11月21日、突然私たちの総裁であらせられる高円宮憲仁親王殿下のご逝去の報に接し、(社)日本アマチュアオーケストラ連盟会員一同は晴天の霹靂にうたれたように呆然自失の有様でございます。ここに会員一同謹んで哀悼の意を捧げます。

高円宮憲仁親王殿下におかせられましたは、平成7年の当連盟社団法人化の時より、総裁として全国アマチュアオーケストラフェスティバルに毎年ご光臨賜り、参加者に親しく激励を頂き会員一同の敬愛を一身に集められました。さらに昨年は日本マスタースオーケストラキャンプにご来臨され、高齢の音楽愛好者にも温かいお言葉を賜りました。

本年の、連盟創立30周年記念新潟大会は、カナダナショナルユースオーケストラが来日しドイツやロシアのメンバーも参加するといった国際交流大会でありましたが、殿下におかれては流暢な英語で時にはユーモアを交えたスピーチを頂き「日本はすばらしいプリンスがいらっしゃって幸せですね」と海外の人々にうらやましがられました。つい数日前、来年の横浜大会の日程について宮内庁との折衝が始まったばかりの矢先、思いもかけぬ悲報に接しました。

私たちは殿下の温顔と心のこもったお言葉の一つ一つを財産とし、「日本の音楽活動をより一層高め、音楽を通して積極的に国際交流に貢献するように」とのご遺志を継承していかなければなりません。

高円宮憲仁親王殿下の御霊の安けく静まりますことを、心より祈念するものでございます。

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
会長 神野信郎
理事長 森下元康

高円宮憲仁親王殿下の思い出

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
理事長 森下 元康

「どうしてアマチュアオーケストラは難しい曲ばかり選ぶんですか？」と言われて私の方ににっこりされるたびに「私が選曲したわけでは……」といつも言い訳ばかりでした。

11月21日は夜にヨーヨー・マに会ってレッスンを受けられる予定だったとか。アマチュアオーケストラフェスティバルにはもう10年前からご来臨いただき、遠慮のないJAOの参加者はそれ写真だ握手だと、そばにいる私は冷や汗ばかりかいていました。ご自身のチェロの演奏はもとより、指揮もされた殿下は厳しい評論家でもありました。技術的に高いレベルの演奏でも心のこもらない演奏にはお褒めのお言葉が無く、熱意が伝わる演奏には熱い拍手をおくられていました。一方ユーモアや茶目っ気たっぷりの一面もあって、沖縄大会での打ち上げ二次会では沖縄県警の許可をもらわないとホテルから出られないので困っていたら「なあに森下先生心配ないよ。先生が止めたんだけどいつの間にか出かけてしまったといっておけば」との仰せ。そんなわけにもいきませんので40分という約束でご案内しました。ところが感激した沖縄のメンバーが帰してくれませんか。私がお傍に近づくと「僕はまだ帰らんよ」を連発され困ったこともありました。昨年と今年の夏は高橋憲治監事や本部委員の伊奈彦定先生にもご案内役を手伝ってもらいました。

11月28日は赤坂の御用邸でのお通夜があり、連盟を代表して私と横田行雄副理事長が列席いたしました。時々お伺いした時に通される応接室がお通夜の会場となり、1グ

ループ40数名が参列しました。私たちのグループには橋本、森前首相をはじめ、森山、川口、竹中大臣、安部副幹事長等の姿もあり、どなたも沈痛な面持ちで列席されてきました。

翌日29日は神野信郎会長のお供をして7時50分に赤坂の御用邸に到着。バスにて豊島岡墓地葬場へむかいました。式は10時からでしたが各界の代表者、海外の大使公使さらに宮家の方々の到着前に着席していなければならないので、およそ1時間半ばかり待ちました。そしてお棺の到着と同時に葬場の儀が始まりました。参列者およそ900名の一同起立着席を何度も繰り返して、祭詞というところにさしかかりました。ここで初めて神主が殿下の生い立ちからご留学、結婚並びに数々のご業績が述べられました。そしてあまたの団体の総裁や名誉総裁の段で「(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の総裁をはじめとし……」という祭文があり、筆頭に当連盟の名が読み上げられた時は会長と顔を見合わせ驚きを禁じ得ませんでした。そして胸の奥からあついものがこみ上げて参りました。この祭文はどなたが文案を練られたかはわかりませんが細部については妃殿下に確認されたことは間違いなく、殿下が私たちに「今後もしっかり頑張って音楽活動の普及と発展に尽くしなさい」とおっしゃっているように聞こえました。

毎年のフェスティバルでいつも私たちを励ましていただいた殿下に、もうお会いすることはかないません。しかし私たちはこれからも苦難に直面した時は殿下の温顔を思い出して乗り越えて行きたいと思います。



新潟大会レセプション(2002年8月)



最後の集合写真(2002年8月)



いつも温顔の殿下



殿下にご臨席頂く予定だったパーシモンホール開館記念コンサート(2002年12月1日)

JAO 創立30周年記念 新潟大会 団結力が成功に導く！



大会実行委員長
新潟交響楽団団長 大塚 哲夫

全国アマチュアオーケストラの皆さんによる真夏の祭典が幕を閉じてから早一か月が過ぎ去りました。信濃川をよぎる川風も朝夕は心地よく、いつの間にも秋の装いを感じさせてくれます。

JAO 創立30周年という記念すべき大会を開催し、無事終了できたことでホッとしております。今大会には全国のJAO加盟団体から82団体306名、ロシア、ドイツから10名、そしてカナダ・ナショナル青少年管弦楽団104名の方々が新潟の地に足を運んで下さいました。幸い天候にも恵まれ、予定された各行事はスムーズに進行し、節目の大会としての重責を果たすことができました。ご参加いただいた皆様や関係者各位に心よりお礼申し上げます。8月2日(金)の開会式では新潟市ジュニアオーケストラが歓迎演奏を披露、同夜はパート別懇親会でお互いの親交を深めました。翌3日(土)の歓迎レセプションでは大会会長の平山県知事が祝辞を述べ、JAO総裁高円宮殿下からお言葉を賜りました。四斗樽の地酒銘酒で鏡割り、JAO会長神野信郎氏のご発声による乾杯があって祝宴へと移りました。アトラクションでは、「リーグ1部昇格をねらう地元J2アルビレックス新潟のチアガールによるパフォーマンスで賑い、「新潟大会は地味コン(サート)で」と臨んだ大会の割りには、少々県民性逸脱の感なきにしもあらずでした。8月3日(日)の最終日は新潟交響楽団、カナダ・ナショナル青少年管弦楽団、フェスティバルオーケストラB、フェスティバルオーケストラAと、4つのオーケストラ合計460名の方々がフランス音楽を熱演、2時間半がアツという間に過ぎ去りました。

大会を振り返って私なりの感想を5つほどあげてみます。まず節目の大会としての『JAO 創立30周年』というタイトルが暗黙の重みとなり、責任の重大さを痛感するとともに、創立者で現理事長の森下元康氏が30年という年月をかけて構築された歴史と伝統の力を再認識させられました。次に、実行委員会の母体となった新潟交響楽団が、本大会を『創立70周年記念』事業の一環として位置付け、JAO本部もこのサブタイトルを承認下さったため、団をあげての参加意識を高めることができました。大会活動を通じて団員相互の理解が一層深まり、団結力が増したことは望外の収穫であります。3番目にカナダ・ナショナル青少年管弦楽団の招聘は当初計画になかったため、受入れ態勢や収支の面で一時的に混乱を招きましたが、いざ本番での秋山和慶氏指揮による演奏は聴衆の感動を誘い、この大会を一段と格調高い国際大会へと導いてくれました。4番目に、大会会場を管轄する(財)新潟市芸術文化振興財団が主催者の一員に加わっていただいたことで、官民一体となった事業推進ができました。今後の大会運営の一助となれば幸いです。最後に、「観客動員数が大会の成否を左右する」という認識のもと、団員にチケットノルマを課して満席を目指しましたが、フェスティバルオーケストラの宿命である即興オケのイメージを払拭しきれず、「演奏会」としての大会を充分PRできなかったのは返す返すも残念であります。

大会終了後、参加者の皆さんや関係者の方々からお手紙やメール、FAX等で「新潟大会は大成功!」「30周年を飾るにふさわしい素晴らしい大会だった」等お誉めの言葉をいただきました。一年半にわたる労苦が癒され、今となっては良き思い出へと変わりつつあります。今大会を通じて、皆様に「お米」と「お酒」と「潟響」の町、新潟を少しでも身近な存在として感じとっていただけましたでしょうか。これからの皆様の益々のご活躍とご健勝、そしてJAOの一層の発展をお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



歓迎演奏
新潟交響楽団



Aオケ



カナダナショナル
ユースオーケストラ



Bオケ



8月2日(金)



今年も全国からやってまいりました。3日間、頑張るぞ！



歓迎演奏をしてくれた新潟交響楽団。
各パート毎で音楽教室があるそうです。



世界中から集まった仲間たち。
参加者同士、集まって来たことへの喜びの拍手。



秋山和慶先生、徳永二男先生の最強コンビ。
ゆるぎない自信が伝わってきます。



下野竜也先生、三浦章広先生の若手名手。
音が自在に変わってゆきます。



カナダナショナルコースのコントラバス美人奏者。



初の全パート同じ会場での懇親会に、受付のスタッフも大変そう。



コンサートマスターも加わって笑顔のヴァイオリンの皆さん。



8月3日(土)



徳永先生と何の話をしているのかな？



ユースとは思えない大人顔負けの演奏です。



フルートアンサンブルでは大きな特殊楽器も登場しました。



何故か休憩所には提灯が？！



運営協議会。アマオケ界の今後を決定する大切な会議の一つです。



楽器を持たなくてもこれも練習なのです。



徳永先生自ら楽譜を差し出す。これもフェスティバルならではの。



今年のレセプションにはチアガールが登場しました。



8月4日(日)



練習風景をご覧になる高円宮憲仁親王殿下。眼差しも真剣です。



新潟交響楽団の歓迎演奏の練習。運営もしながらの練習は大変だったとか。



本番前の打ち合わせ。余念がありません。



カナダユースの出番町の舞台裏。ねえ、ホントにユース？



舞台裏でドキドキしながらモニターを見つめます。



秋山・下野両指揮者。笑顔で参加者を見守っています。



満場の客席から盛大な拍手が送られました。



来年は横浜での開催です。また来年お会いしましょう。

222222222 参加者インタビュー

・・・所属団体のPRをお願いします・・・

①参加種目 ②楽器名



北海道交響楽団

加進 淑代

①Bオケ ②Vn

4管編成や道内初演、難曲などに挑んでいます。管楽器が多いのでその分、弦楽器はちょっと大変かも？指導者の川越先生のお力が絶大。感謝しています。



清水フィルハーモニー管弦楽団

高野 友孝

①Aオケ ②Vn

9月に定演があります。「運命」と「真夏の夜の夢」メンデルスゾーンのVn協奏曲です。今後とも宜しくお願いします。



大阪市民管弦楽団

山瀬 敦

①Aオケ ②Vn

大阪のシンフォニーホールでの定期で、ベートーヴェンの4番と「三角帽子」をやります。HPも見てくださいね。



山形フィルハーモニー交響楽団

亀田 明佳

①Bオケ ②Vn

通称「山フィル」は土曜の夜の練習なので、練習時間よりも長い飲み会があります。ぜひ遊びに来てください。



福井交響楽団

黒川 誠也

①Aオケ ②Va

県内唯一の大きな曲を演奏するオケです。県立音楽室にぜひ来てください。



堺フィルハーモニー交響楽団

伊賀 みどり

①Bオケ ②Vn

子育て支援として託児を始めました。子育てしながら練習も演奏会も出られる環境作りをしています。私が責任者です。



ワグネル・ソサィエティ・OB・オーケストラ

齊加 真澄

①Bオケ ②DB

ここに来て去年会えた人たちと再会できて、また新しい人たちとも出会えて、それが楽しかったです。（入団間もないため感想を聞きました）



福島市民オーケストラ

宮崎 真

①Bオケ ②Pice

歴史は古いのですが、今は新しい人たちがたくさん来て頑張ってます。僕も少し離れていましたが今はここで頑張ってます。



山梨交響楽団

切石 史子

①Aオケ ②Ob

90~100人になるオケで普段は年1度の定期の年度の後半に毎月ある音楽教室や年末の第九やオペラの練習をしています。看護婦、医者、お坊さんまでいて、「ゆりがごから墓場まで」と多彩な団員構成です。



長岡交響楽団

高橋 正紀

①Aオケ ②Cl

あまり大きな団ではないので大曲を演奏するチャンスがなかなかありません。なので楽しんで演奏したいと思います。



豊橋交響楽団

水谷 哲

①Bオケ ②Fg

10月にブラームスの3番を演奏します。来年1月には映画音楽特集。聞きに来てね♪



柏交響楽団

田中 裕

①Bオケ ②Tp

この近年、とても充実していて、弦楽器の募集を止めたくらいです。次回は「悲愴」をやります。Obs Fgが足りませんのでぜひ来てください。



埼玉フィルハーモニー管弦楽団

野村 善晶

①Aオケ ②Tb

記念演奏会でショスタコービッチの「祝典序曲」とラフマニノフの2番をやります。ぜひお越しください。



吹田市交響楽団

橋本 邦子

①Bオケ ②Perc

家族ぐるみで練習に参加できる、仕事や家庭の都合があっても理解が得られて続けられるアットホームで、いいオーケストラです。



いわき交響楽団

佐藤 浩之

①Aオケ ②Hr

今年で創立19年です。オケは一つしかないのですが、全国に3ヶ所しかない音楽専用練習会場でいつも練習しています。魚が美味しいです。



富士フィルハーモニー管弦楽団

山下 和義

①Bオケ ②Tub

来年4月に「シェヘラザード」をやります。富士山が見える環境で練習しています。とてもいいホールですので、ぜひ見に来てください。

222222222 指揮者インタビュー SSSSSSSSSSS



Bオーケストラ指揮者
下野 竜也 さん



Aオーケストラ指揮者
秋山 和慶 さん

新潟には何度かお越しになられていますか？

はい、新潟室内合奏団というアマチュアオーケストラにお伺いしたことがあります。

新潟の感想は？

今回はホストオーケストラの新潟交響楽団が本当に完璧な運営をしてくださって、音楽に集中できる環境を作ってくださったことにまず感謝を述べたいと思います。そしてとても良い土地柄ですよね。すごく人々があたたかくて、朗らかな気持ちになります。

Bオーケストラの率直な感想をお願いします。

腕達者な皆さん方が集まっていられるんですけど、でも今回の曲はそんなに普段取り上げられる曲ではないですね。ですから最初は皆さん戸惑っていらしかったみたいですが、この2日間の練習で少しずつ整理されてきています。でもやるだけではもったいない曲ですから、ぜひラヴェル特有の色をね、“いけいけどんどん”ではない色を皆さんで感じながらやっていただけるようにするのが、あと残された時間の課題だと思います。でも皆さん大変積極的に取り組んでいただいているので、すごく楽しくやらせていただいています。

アマチュアオーケストラがこれから改善していく点は？

アマチュアの演奏家の方は聴衆でもあるので、ある意味大変耳が肥えてらっしゃると思うし、プロの演奏家より色々なことを知ってらっしゃることもあるんですが、でも合奏する時にはそれぞれの好みをあまり主張し過ぎずに、今ここで行われているアンサンブルに集中してほしいですね。そこに集まった以上そのオーケストラの中で何かを作ろうという意思でやると、より楽しくなると思います。私が好きなのはカラヤンだからとか、アバドだからとか、クライバーだからとか、誰れが好きだからこう演奏したいというのはあるでしょうけれども、それは楽しむものであって、自分達が演奏する時にはそのオーケストラの指揮者を中心としてオーケストラ独自のカラー、良さをだそうとすれば、アンサンブルも良くなっていくと思いますね。それでまた地域の特色が出たり、色々良いことづくめではないかと思います。

新潟には何度かお越しになられていますか？

そうですね、東京交響楽団と一緒によくお伺いします。

新潟の感想は？

東京交響楽団の演奏会にはいつも大勢のお客さんにお越しいただいています。難しい曲も多くプログラムに載せるんですが、いつも楽しんで聴いて下さって、他の都市にはない雰囲気がありますね。地方での演奏会では、ともするとポピュラーなプログラムに偏りがちなのですが、新潟の聴衆の方はメシアンやストラヴィンスキーなどもとても期待して、楽しんで聴いて下さるので、演奏する側もとても張合いがあります。

Aオーケストラの率直な感想をお願いします。

初めてこの曲を演奏される方もいらっしゃるわけですが、難しい部分が多くあります。普段とは違って今回のような短時間で仕上げなければならないという経験を積む時に、消化能力というか、どの位練習したことを覚えていられるかということになるわけですが、そういう意味では少しばらつきはあるかもしれませんが、皆さん本当に一生懸命やってくださっているので、いい演奏会になると思います。

アマチュアオーケストラがこれから改善していく点は？

難しい曲も多く取り上げられているようですが、上っ面だけを整えたような演奏ではなくて、もっともっと深く追求して、きちんとした演奏をいつも心掛けてほしいと思いますね。マーラーもやった、ブルックナーもやったという話もよく耳にしますが、本当にやろうと思ったら我々プロフェッショナルが何十年やってもまだつまみこみ不足という部分がたくさんあるわけですから、いつも謙虚に音楽に接してほしいと思いますね。作曲家がどんな音を要求していたかをもっと掘り下げて研究して、良い音をつかんでもらいたいですね。

第6回 BDLO 研修旅行

「第6回BDLO研修旅行に参加して」

我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団
石川 八谷

ドイツアマチュアオーケストラ連盟（BDLO）のオーケストラキャンプは毎年、精霊降臨祭の月曜日に4日間のキャンプの成果演奏会が行われるよう日取りが決められる。この祝日はキリストの復活後、第7日曜日に精霊が降臨したことを記念する日で今年は5月20日がその月曜日。この時節ドイツは緑が映え、精霊が降臨するに相応しい。フランクフルト到着翌17日、午後5時ごろキャンプ地のヴァイカースハイムに到着。この日、日本アマチュアオーケストラ連盟（JAO）副理事長の横田さんと一緒に午前中はヴェルツブルク、そして午後はローテンブルクを見学してのキャンプ入りだった。ローテンブルクからは車で約30分ほどの所である。

『懐しい人々との再会』

宿泊所となるムジークハウスに2年ぶり、3度目の入所をする。荷物を部屋に置き、食堂へ行く。約半数ぐらいの方々に見覚えがある。3年ぶりであう人もいる。次々に握手を交わして再会を喜び会う。中には名前を思い出せない



キャンプ参加者の宿泊所、ムジークハウス

人もいるが、そんな時は出発前に配布された参加者リストを取り出して名前を確かめる。参加者リストは必需品である。夕食を食べながら話し込んでいると、7時からヴァイカースハイム城の裏手にあるガルテンハウス（園亭）で最初の練習があることが告げられる。のんびりはできない。

ムジークハウスから2分ほど歩くと街の中心マルクト広場に出る。城はそこから直ぐ目の前にあり、城門を潜り、城の側を歩いて裏手に回ると城庭園の正面入口に着く。この庭園は南ドイツを代表するバロック庭園として評価が高い。城をバックに庭園への降り口に当たる階段の所に立ち庭を見渡す。遠方にはこの街を取り巻く小高い緑一色の丘。ヴァイカースハイムは8,000人足らずの人口の12世紀から18世紀にかけて改築・拡張を重ねた城を中心とする小さな街であるが、周囲はぶどう畑と森に囲まれている。正面入口の反対側の庭端にはオレンジ栽培用温室が建ち、庭

の中央に池と噴水がある。そこを中心に交差する歩道により庭は四角に区切られ、歩道に沿ってジュピター、ヘラクレスなどギリシャ神話に登場する神々の像、城主ローエ公の武装姿の像や石柱が立ち並ぶ。また、城側の境目となる欄干には宮廷に仕える使用人達の戯画像がある。生き生きとした表情をしていて私にはこちらの像の方が親しみ深い。18世紀の始めに建造されたこの庭園はいつみても美しいが今年はまた格別である。というのは、庭の左右両側に立ち並ぶ樹木が一斉に花を付け、まるでシャンデリアのように庭を照らしている。気が付かなかっただけのこともかもしれないが3度目にして目にする花である。城内には1600年頃に作られたリッターザール（騎士の間）という宴会の広間があり、そこで観たシャンデリアは実に豪華だったが、今見る花はまた城庭に相応しく豪華である。「何の花？」と練習場へ向かって一緒に歩く人に聞くと、後ろを歩く立派な顎髭をつけた人が、「カスターニ」、英語の「チェスナット」と答えてくれた。つまり栗の花。あとで樹木に近づいて見ると、日本の栗の花とは形も色も全く違うものだった。顎髭の人はトーステンさんという方。この時が縁で、帰国後Eメールのやり取りをすることになり、ワールドサッカー試合で日本がトルコ戦で負けた時にはおおいに彼に慰められた。



バロック、ロココ様式が混在するヴァイカースハイム城



広大で美しい中庭

ガルテンハウスは城庭園の入口から数十メートルほど先
にあり、その前は市立公園になっている。枝を張った多数
の広葉樹が木陰を作り昼でもうす暗い。人影は少なく静か
である。建物は歴史を感じさせる古い木造建築の2階建て
でオーケストラの総合練習は1階のホールで行われる。約
80名の奏者が少し窮屈な程度に詰めながら自分を確保す
る。ヴィオラは6ブルト。トップの座席以外は特に指定さ
れていないようだ。できたらJAOの名古屋大会のとき一
緒にブルトを組んだコルネリアさんのことネリーとブルト
を組みたいと思っていたが既に彼女は若い女性とブルト組
んでいたの、ほぼ自分と同年輩と思われる初対面の男性
のシュミッツさんと3ブルト目を組む。練習に先立ち、今
日もキャンプの幹事役をされるヴィオラパートのフラオケ
さんが指揮者と講師の方々の紹介する。指揮者はドクター
の称号を持つリチャード・フーゲイさんというお名前。弦
楽部は5人のプロの講師が各パートのトップ席に座りリ
ードする。第1ヴァイオリンの講師、すなわちコンサートマ
スター役をされるのは2年前と同じノイベルトさんだっ
た。この後フルートの山元さんが加わるが、この時点で日
本からの奏者は私だけだったので、フラオケさんは最後
の方で私の紹介もしてくれた。毎年、日本からは数名の弦
楽器奏者が参加するのに今年はどうしたことが私独り。初
練習を前に紹介などされるといよいよ緊張感が高まる。

練習はドヴォルザークの序曲「カーニヴァル」から始ま
った。1891年、彼が50歳の時に作曲された3つの序曲中、
2番目の曲である。ちなみに、ドヴォルザークはこの1年
後にニューヨークに新設された私立ナショナル音楽院の院
長に迎えられて家族と共に渡米をしている。当初彼はこ
の曲に「カーニヴァル」の副表題がつく「生(Life)」と
いう表題をつけたい。確かに、お祭り気分に溢れた曲
であるが、弾き始めると何か豊かな自然の中に生きる喜
びのような感慨がふつふつと湧いてくる。日本のアマチュ
アオーケストラの演奏会ではあまり取り上げられる機会が
多くない曲のように思えるがなかなか良い曲である。初め
ての演奏体験でもある第1回目の通し練習を自分としてはあ
まり大きな破綻もなく楽しく終わることができた。

『猛練習は続く』

続いてストラヴィンスキーのバレエ組曲「火の鳥」
(1919年版)の通し練習に入る。ベースが森奥深く眠る
「火の鳥」の寝息のような旋律を奏でて曲は始まる。2小
説おいてヴィオラがそれに同調する。緊張の中に弓が動く。
曲は「火の鳥」が目覚め、羽ばたくと思われる場面から火
の鳥の踊り」と表題がつく曲へと進む。音による鮮やかな
場面展開が要求される場所であるが、演奏するのは容易



練習風景

でない。ゆっくり弾いても難しい左手の動きを拍が変化す
る早いリズムの中で対応させなければならない。他のパー
トの音を聞く余裕がないから、ずれの矯正が難しい。踊り
(ダンス)と表題がつくテンポの速い楽曲はもう一つ「カ
シュチェイの踊り」という魔王が踊る曲があり、こちら
の方はさらに難しい。途中で進行を見失うほどずれてしま
う。覚悟はしてきたけれど、やはり大変な曲である。

しかし、この大変さも二日目、三日目と続く午前中に城
内の一室で行われた2時間のパート練習と午後と夕刻やは
り9時までの合計4時間の総合練習によって相当のところ
まで克服できるようになる。これまでの指揮者もそうだ
ったがフーゲイさんもまた、実に精力的で粘り強い指導をさ
れた。表現の仕方をとても良い声で歌って教える。また、
テンポが速くリズムが複雑なところではゆっくりしたテン
ポから次第に速くする練習をする時、速さの設定に木魚の
ような音が出るメトロノームを使い効率的な指導をされ
た。

練習は9時に終わる。初体験の曲の2曲を練習してやや
疲れ気味であるが、ようやく外は暗くなっただけでこの
まま宿舎に帰って寝るわけにはいかない。ビールを飲みた
い。



練習後に飲む店にはこと欠かない

何人かの人に後ろについて以前も来たことがある城内に
あるバーに入る。宮廷の台所にでも使っていた部屋であ
ろうか、1階にある石壁のただ広い部屋の一角をカウンタ
ーにした薄暗い殺風景なバーである。今回のキャンプのよ
うに城の施設を使用する団体客があるシーズンにアルバイト
を使って開くようだ。20歳くらい男子二人が客の飲み物
の注文に応じる。ビールもワインも2ユーロ出せば釣りが
くる。ビールを手にしてヴィオラのドクター・パウアーさ
んの隣に座り、話しかける。1年前も一緒だった方で専門
は物理学。研究所に勤め大分以前に神戸で開催された学会
に出席するため一度だけ日本に行ったという。今は退職し
てもっぱら音楽演奏を楽しんでいる点では私と同じであ
る。とつとつとした話し方であるがこの方の英語は聞きや
すい。日本文化にも関心があるらしい。南禅寺方丈の襖絵
の絵葉書を差し上げたら大変喜ばれ、帰国後、お礼にとご
自分で作成されたCDを送って頂いた。彼が住んでいる村
で今年4月に開催したコンサートで演奏したベートーヴェ
ンの2曲のピアノソナタ、作品26変イ長調と作品109水
長調を録音したものだ。彼自身が作成した作品の解説
書つきである。村の人たちはコンサートでの彼の解説を楽
しんで聞くと言う。なるほど、ベートーヴェンの作品につ
いて造詣の深さを窺い知ることができる解説である。しか

し、なんといっても演奏が素晴らしい。彼の演奏のように優しさにあふれたベートーヴェンのピアノソナタを私は聴いたことがない。

『ジョッキ越しに見たドイツ』

何杯かビールをおかわりし、ほろ酔い気分になったころ、ネリーが傍にきて向こうで一緒に飲まないかと誘ってくる。最初20人程度だった客は倍以上に増えている。皆オーケストラの人たちでキャンプ参加者の半数以上がこのバーにきていることになる。彼女はブルトを組んでいるウルスラさんと紹介された女性と一緒にいた。二人とも私が飲んでいるビールとは違うビールを飲んでいる。ネリーは自分のジョッキを差し出し味見をさせてくれた。美味い地ビール。今度はこれにしようという彼女がカウンターに行き買ってきてくれる。代金はよいと言うので親切に甘え改めて乾杯をする。今日の「火の鳥」の練習はどうだったというようなことから会話が始まる。彼女は4歳からヴァイオリンを始めた腕達者なヴィオラ奏者。しかし、彼女にとっても「火の鳥」は難しいらしい。その中、昨年名古屋フェスティバルでのヴィオラの懇親会の話になる。あの時は外国からただ一人のヴィオラ奏者であるネリーを囲んで、徳島から参加の直原亜紀さんの阿波踊りが出るなど飲み会は大いに盛り上がった。とても楽しかったと彼女は

言う。

とかく日本人の飲み会は騒がしくなりがちであるがここではみんな実に静かに飲んでいる。大声や、げらげら笑いは聞こえてこない。勿論、話題がなく飲むだけというのは決してない。誰かが話題を提供すると周りの人は耳を傾け次々と意見をいい、途切れることがない。だからなのかどうかは知らないが、一度座わると彼らはその場所を変えない。私の場合は残念ながらドイツ語での話題になるとテーブルを変えることになる。それに、ビールからワインに変えて酔いが回ると尻も軽くなる。フランケンワイン本場の辛口で美味しいワイン。グラスを手に持ち、話かければ皆親切に応じてくれる。

こうして、キャンプ期間中、2日目も3日目も夜9時の練習が終わるとこのバーでのノミネーションを楽しんだ。何を話したかは殆ど忘れていたが、「火の鳥」の導入部のメロディと共に言葉を交わした人たちの顔が浮かぶ。来年の練習曲はブルックナーの交響曲7番。また行ってみたいと思う。キャンプを思い出して作った拙句を記す。

聖霊の降りしキャンプの弾む弓
万緑や火の鳥踊る前奏曲
宮廷の庭シャンデリア粟花満つ



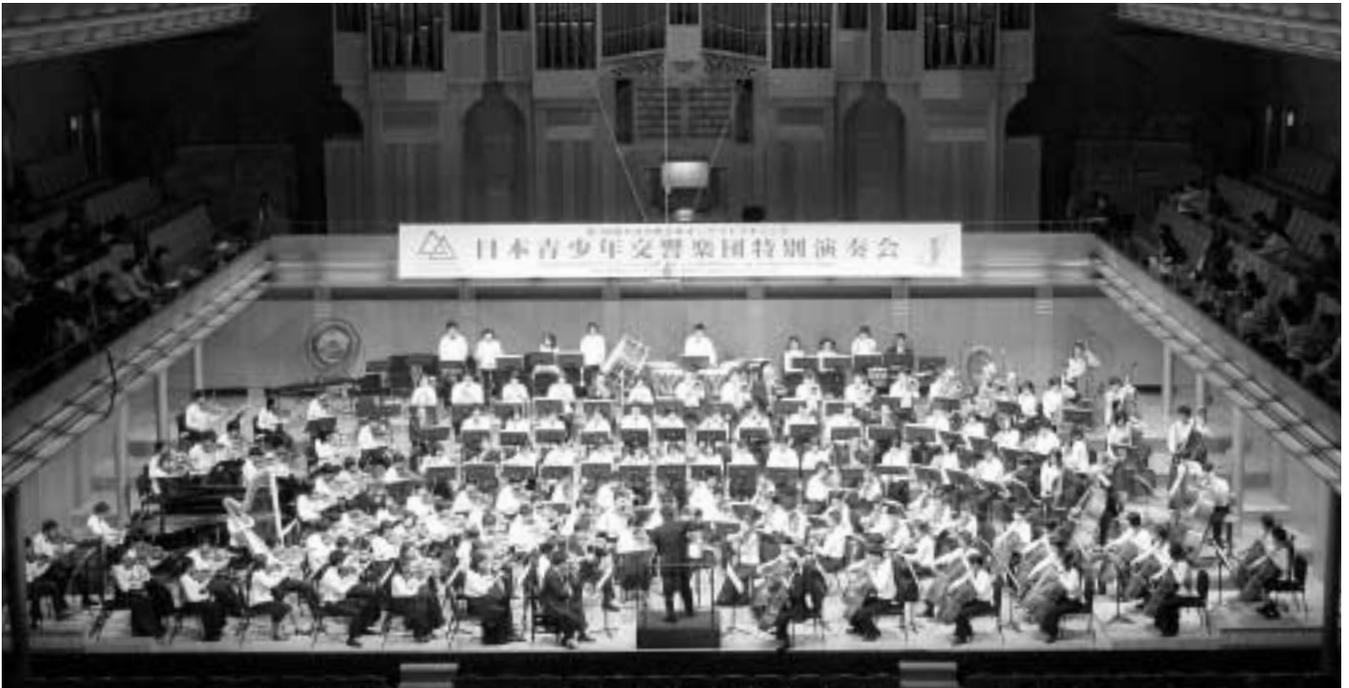
ヴァイカスハイムの街並



BDLO理事長コンラディさんを囲んで参加者の皆様（筆者石川さんは右から3人目）

二年越しの成果、十分！ —— 宮崎キャンプ大成功 ——

去る2002年3月28～31日までの4日間、第18回TYOCが宮崎県立芸術劇場で行われました。最終日には特別演奏会も開かれ、大盛況のうちに幕を閉じました。



誇りに思えるステージを

第7期TYOC運営委員長 大場 紀章

TYOC史上初の本州を離れてのTYOC第7期(第17～18回)が2002年3月31日をもってその幕を閉じた。「やっぱり、TYOCって楽しい！」そう実感出来る4日間、いや2年間だった。

初年度である第17回では、夜更かしをした参加者が多く、最終日は疲れの色が隠せず、総合練習を切り上げる事態となった。もちろん、過密すぎるスケジュールにも問題があったがオーケストラの一員としての自覚と「一体感」にかけていたのではと感じられた。

しかし、締めめの年である第18回では初年度の心配もうらはら、日に日に演奏の完成度が高まっていく事を肌で感じる事ができた。オーケストラ、一体感。本気になる事、楽しめる事。一つ一つの音の大切さ(青木先生!)音楽。素晴らしいではないか!

何より、本番終了後、お互いの顔を見て、「頑張ったね、楽しかったね」と確かな手応えを胸に涙する参加者たち、エネルギッシュな演奏に興奮する観客を目の当たりにして、このキャンプの「大」成功を確信したのだった。

そして、舞台裏をのぞけば、こんな僕らの演奏を聴いて感動して下さる先生方と、あらゆる面でサポートして下さった、多くの宮崎のスタッフの方々、引率の先生方、青少年オーケストラ委員会、トヨタ自動車の関係者。こんな恵まれたサポートがある事を私たちは感謝せねばなりません。

思い返せば長いようで、そしてまた儂いほど短くも感じられる、そんな宮崎での激しく過ぎ去った2年間。それぞれの参加者の心には何が残ったのだろう。

1 日目

昼からみんなが徐々に集まり出しました。これから始まる忘れられない四日間に期待で胸をふくらませ、さあ、いよいよ始まりました、第18回TYOC。今回は最終日に演奏会も控えていることもあって、みんなやる気で満ち溢れています。いったいどんな四日間が彼らを待っているのでしょうか.....



無事一日目を終え、次の日にそなえて静かに休む若者達。とはいかず、久しぶりの再会を喜び合っていたのではないのでしょうか。

2 日目

2日目ということで総合練習からしばし離れ、パートやセクション練習によって小さなまとまりを固めていった一日。みんなまだまだパワーがありあまっています。夜には「なまえDEピンゴ」という企画もあり、楽しく過ごせた一日だったのではないのでしょうか。



3 日目

いよいよ次の日に演奏会がせまってきました。みんなやっぱり気迫が違う！練習にもより一層身が入った一日でした。



4日目

4日目は演奏会がありました。
 それではここで、演奏会を終えた直後の何人かのみんなの生声をきいてみましょう！

《4日目、演奏会を終えて》

ラブソディーを弾きながら泣きそうになってました。キャンプに参加して、演奏会のステージに立つことができたことを誇りに思います。コンサートが終わった時に、みんなで「楽しかったね」と言い合ったことは絶対に忘れません。今回は本当に楽しかったというのが率直な気持ちです。来年もまたきます。

(1st Vn 辻村祥子 Jr 浜松)

この4日間今日のために練習して大変なこともたくさんあったけれど、あっと言う間に時間が過ぎた感じでした。アダージョの時は心臓バクバクでした。今思うと、頑張ったから、頑張った分緊張したのかなと思いました。このキャンプではたくさんのことを学びました。毎日、参加するたびに多くのことが学べるのでとても嬉しいです。終わった瞬間、来年も参加するぞ、と思いました。

(1st Vn 吉田美佳 藤沢 Jr)

とてもいい経験になりました。みんないちばんいい出来だったと思いました。少し間違えたところもありましたが、全体的にはよかったです。

(2st Vn 正木慎太郎 熊本コース)

とてもつかれました。けど.....4日間、とても楽しかった。

(Vc 永野紗佑里 宮崎 Jr)

今日はいつもできてなかった所ができたのでうれしかったです。あと、貴重な経験ができました。よかったです。

(Tb たまききよか 中城 Jr)

今日はゲネプロの時から、この2年間の事や、出会った先生方、友達の事を思い出したら、涙腺がゆるみっぱなしでした。私にとって最初で最後の参加だったのえ、心を込めて演奏できた。この2年間学んだ事をこれからの自分に活かします。すばらしい先生方、友達に出会えて幸せに思います。(F1 米倉さゆり MBCコース)



感激でしたね。やっぱり大編成でみんなで力を合わすというのは、言葉にできない喜びがあるものです。それでは次は“キャンプへの提案”の集計結果です。

次回キャンプへの提案集計結果

4日目の研修記録にあった皆さんの提案について、男女別に集計をとり、運営委員でまとめてみました。コメントもしたので読んでください。ちなみに意見の多かった順に並べてあります。

	男	女		男	女
1. 宿泊施設で音出しがしたい	2	14	17. 楽でスムーズなキャンプにして欲しい	3	2
2. 個人練習の時間が欲しい	0	14	18. 交流のできる企画にして欲しい	0	4
3. 夜食が多い	2	9	練習場所と宿泊場所を	1	3
4. ビンゴみたいな楽しい企画をやって欲しい	2	8	19. 一緒にして欲しい		
5. 企画の時間を多くして欲しい	5	3	20. 先生の演奏を聴きたい	0	4
6. 他団体との交流がしたい	1	7	キャンプ前までにボーイングを	2	2
7. のんびりしたい	1	7	21. 決めておいて欲しい		
8. 観光(自由な)時間が欲しい	2	5	22. 楽譜が早く欲しい	0	3
9. パート練習の時間多めに	4	3	23. 弁当の量が多い	0	3
10. 毎日弁当はつらい	1	5	24. 企画をもう少し工夫して欲しい	0	2
11. ビンゴをやって欲しい	0	6	25. 8人部屋はつらい	0	2
12. 他パートとの交流がしたい	1	5	26. パーティーの時間を長くして欲しい	0	2
13. 宿泊部屋に早く戻りたい	2	4	27. パーティーの食事のメニューを増やして欲しい	0	2
14. セクション練習の時間多めに	1	4	28. 降り番をなくして欲しい	0	2
15. 研修記録書く量を少なくして欲しい	2	3	29. 連絡前に「ピンポンパンポン」鳴らして欲しい	0	2
16. キャンプの日数増やして欲しい	2	3			

	男	女
30. 紙を節約して欲しい	0	2
31. 練習番号は事前に決めておいて欲しい	0	2
32. 宿泊施設で勝手な行動をしないで欲しい	0	2
33. 楽譜に小節番号を入れておいて欲しい	0	2
34. 夜食が少ない	1	1
35. 原譜を使って欲しい	1	1
36. もっと遅くまで練習したい	1	1
37. 起床時間をもっと遅くして欲しい	1	0
38. 睡眠時間を増やして欲しい	1	0
39. 弁当の量を増やして欲しい	1	0
40. 大型楽器を総合練習場所の近くにしたい	0	1
41. 本番の後に打ち上げをやりたい	0	1
42. バーベキューがしたい	0	1
43. 年齢制限をなくして欲しい	0	1
44. 青年の家などを使ったほうがいい	0	1

	男	女
45. パーティーの机と椅子を増やして欲しい	0	1
46. パート内で話をする時間が欲しい	0	1
47. 本番の前日は練習時間を少なくして欲しい	1	0
48. 大人数部屋がいい	0	1
49. 朝日のよく入る明るい部屋がいい	0	1
50. 用意する飲み物にミネラルウォーターが欲しい	0	1
51. 講師の先生の話が聞きたい	0	1
52. ジュースを注ぐ人は必要ない	0	1
53. 弁当をなくして欲しい	0	1
54. キャンプ開始後すぐに総合練習はやめて欲しい	0	1
55. 参加費が高い	1	0
56. パーティーは先生とパートごとに食事がしたい	1	0
57. パーティーはテーブルでの食事がいい	0	1

やはり、練習時間の配当に関する意見がかなり多いようです。今回の宮崎でのキャンプでは、宿泊施設などの決まりごとなどもあったので、夜の音出しの制限がされてしまっていました。今後、どんな施設で開催されるかにもよりますが、出来る限り夜の音出しは可能にする方向で検討していこうと思います。また、総合練習時に注意されたことをさらう時間が欲しいという意見も多数ありました。これに関しては深刻な問題であると考えていますので、次回からは改善されていくと思います。

その後に続く意見としては、あわただしいからのんびり観光などをさせてくれというものがありました。これについては、遠方から来られた方々は確かにどこかへ行きたいのは分かりますが、キャンプには音楽を学ぶために来てい

るので、キャンプ日程外でお願いします。

その他、交流をしたい、や、企画をよりよくしてほしいなどの意見については、こちらも今回の経験を生かし、次回に同じ失敗を繰り返さないようにしようと思っております。

また、少数派の意見の中には、人によって感じ方が違い、全く正反対の意見などありなかなか改善は難しいのではないかと考えられます。力及ばず申し訳ありません。

最後になりましたが、いろいろなお意見本当にありがとうございました。これからも意見を集め、みなさんがより満足していただけるキャンプにしていけるよう、運営委員一同努力していきますので、ご協力お願いします。ありがとうございました。



次回、第19回TYOCを 迎えて……



第19回TYOC運営委員会 委員長 鈴木 肇
豊橋交響楽団

みなさん、こんにちは。昨年の運営委員の方々より推薦いただき、次回クールの運営委員長を私がやらせていただくことになりました。

昨年のTYOCは前運営委員長の大場紀章君の努力によって大成功をおさめることができました。次回も前委員長にならい、スムーズかつ内容の充実したキャンプにできるよう前から十分に準備していくつもりです。

開催場所はみなさんご存知の通り、神奈川県湘南国際村です。宮崎の会場に勝るとも劣らない素晴らしい会場なので、楽しみにしててください。

また、このユースジャーナルを見てご意見などありましたら私までご一報下さい。

それでは春に神奈川県でお会いしましょう。

【編集後記】

- ・今回は写真がとにかくたくさんあって、大変でした。どれもこれもいい写真ばかりで……。容量自体は少ないユースジャーナルになっていますが、濃い内容だと思うので満足していただけたら幸いです。(肇)
- ・写真を選んでいたら次回のキャンプが楽しみになりました。(有)
- ・キャンプの練習の楽しかったことや辛かったことを改めて振り返ることができました。(敏充)
- ・写真がいっぱいありすぎて選ぶのに疲れました。(良輔)
- ・舞台上でつけたあのバッチをつけた人に、いつの日にかどこかでまたあえたらいいですね。(大場)

JYJ 編集部

編集長 鈴木 肇

編集員 大場紀章 小久保有 入谷敏充 鈴木良輔

横田行雄副理事長、 教育功労者表彰を受賞

当連盟副理事長、横田行雄さんは、千葉県教育委員会から平成14年度教育功労者表彰を受けた。これは市川交響楽団を中心に地域文化活動に尽力し、千葉交響楽団協合理事、(社)日本アマチュアオーケストラ連盟副理事長、同国際交流委員長としての活動と功績が認められたものである。去る11月1日の表彰式に出席した横田行雄さんは「好きな音楽を地道にやってきたことが評価され大変嬉しく、光栄に思います。これも村上正治先生や、JAO、市川交響楽団をはじめとする皆様のおかげです。これからも一層の努力をしてまいりたいと思います。ありがとうございました。」と喜びを語った。



表彰式で奥様とともに。

事務局通信

世の中、景気のいい話はなかなか聞こえてきません。我々の活動を取り巻く環境も厳しい状況が続きます。平成15年度のトヨタコミュニティコンサート(=TCC)はA方式5件、B方式48件の申込をいただきました。現在トヨタ自動車と各地域の販売会社グループとの調整が行われております。いつもながらトヨタの担当者は誠意を持って、1件でも多く認められるよう努力をいただいております。数多いトヨタのメセナ活動が軒並み削減される中でアマチュアオーケストラに対する予算は少ないカット率で済んでおります。結果の最終連絡については1月中旬となる予定です。今回も年を越してしまいましたことをお詫びいたします。

茫然自失とはこのことをいうのでしょうか。驚きと深い悲しみは11月21日夕刻、事務所への一本の電話から始まりました。東京のNHKからでした。

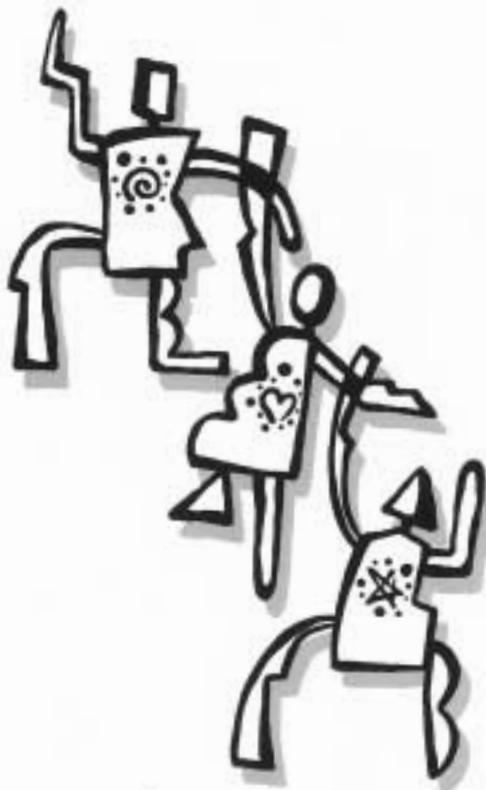
当連盟は大きな精神的な支柱を失いました。しかし慟哭の中からは何も生まれません。私たちの総裁、故高円宮憲仁親王殿下の遺志を受け止め、恥ずかしくない活動を続けていかなければなりません。多くの会員オーケストラの皆様から哀悼の意と、殿下を偲ぶ行事のご報告をいただきました。ここに心からお礼申し上げます。

新年、平成15年は癸未(みずのとひつじ)年。癸(みずのと)は甲乙で始まる十干の十番目。この世を形作る5つの要素、木火土金水の最後の「水の弟」。未(ひつじ)は十二支の8番目。未という字は木に若い枝が伸びた様を表し、転じて若い、まだ小さいなどの意。方角では南西からやや南寄り、時刻では午後2時ごろ、動物では羊。羊は縁起のいい漢字で、「善」や「翔」、「祥」に使われている。先行き不透明な年、しかしますます私たちの活動は重要度を増してきています。未来に向かって飛翔する年にしたいものです。

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。 TOYOTA

トヨタは、全国で21年950回を数えるトヨタコミュニティコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワク、ドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。

もっと、たくさんの感動を応援したい。
いっしょにトヨタの願いです。



いっしょにトヨタの願いです。



●トヨタのメセナ(芸術文化活動)の情報はインターネットでより詳しくご覧いただけます。www.toyota.co.jp/mecenat/

応援します愛知万博